

画する。

- 3 連携を内容的に充実させるための研究を推進する。

4 連携して指導した生徒の事前研究を計画する。

- 5 「学校主導型から保護者の手による「方部別懇談会」の開催

◇中学校側の成果と今後の課題

一 成果

- (一) 中学校の訪問によって、高校入学校の生徒の様子を知ることができ、今後の中学校での生徒指導、進路指導についての見通し、改善に役立てることができた。

- (二) 高校の授業公開や研究協議会等に参加し、高校の教育活動について理解を深めることができた。また、学習指導法の改善を図る意味からも大変よい機会となつた。
- (三) 合同の校外指導等を通じて、中・高教師の人間関係が、より密接になつた。

- (四) 中体連行事への協力（高校教師の役員審判、施設貸与など）や高校生の母校訪問による部活動指導等で、高校への親近感を深めている。

二 今後の課題

- (一) 中・高連携を更に前進させるために、年間を通しての計画的な交流を図りたい。
- (二) 中学校を交えての方部別保護者懇談会を充実させ、地域ぐるみで取り組む生徒指導をめざしたい。

（三） 中学校として高校に生徒を送り出した後も、生徒を見守る姿勢であります。生徒を充実させ、地域ぐるみで取り組む生徒指導をめざしたい。

規律ある生活の指導

一 会津農林高校

会津農林高校は、明治四〇年、農業自営者養成を目的に、河沼郡農学校として設立されたものである。以来七十五年間、会津地方の農業教育の中心校として、地域社会に幾多の人材を送りだしている。

現在は、農業、家政など六科、生徒数約七〇〇名を有し、近代農業経営者にふさわしい人間づくりと、実践力を備えた産業人の育成を目指し、全職員一丸となって努力しているところである。

二 研究主題の設定

近年の急激な社会構造の変化は、農業高校に、多くのひづみをもたらしており、会津農林高校もその例外ではない。

入学志願者は、年々減少し、この数年募集定員に満たない状態が続いている。

それに伴ない、学習意欲に乏しく、目的意識の希薄な生徒が多数入学してくれるのが現状である。このことが、生徒の生活、行動面にも反映し、その指導に苦慮しているところである。

このような状況の中で、生徒一人一人の社会的資質や行動を高め、自己確立を図る指導としては、(1)基本的生活習慣と集団の規律を確立すること、(2)人の社会的資質や行動を高め、自己確立の一員としての自覚を高めること、(4)高校生活への意欲を高めることなどが肝要である。その基盤となるのが、日常における規律ある生活であるといふ認識から、研究主題を「規律ある生活の指導」とした。

高校生活への意欲を高めることなどが肝要である。その基盤となるのが、日常における規律ある生活であるといふ認識から、研究主題を「規律ある生活の指導」とした。

三 研究の方針・計画・組織

（一）研究方針

理論に流れることなく、実践的な研究とする。

（2）指導の結果を常に評価し、指導の改善に役立てる。

（3）教師の一方的指導に終わることなく、生徒会を頂点とする生徒の

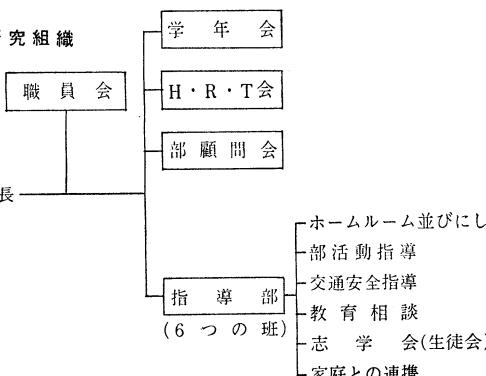
自主活動により定着を図る。

（4）生徒の自主活動の推進にあたっては、結論を急ぐことなく、その過程を大切にする。

（二）研究計画

当面する生徒指導上の課題として、次の六項目を取りあげ、全校的体制でその改善、充実に取り組むことにした。

表3 研究組織



校

（一）研究組織	表3の通り、指導部内に実践項目に対応する六つの班を組織し、研究の実態を把握した上で、生徒会の活動を通して、前記(1)、(3)、(6)に重点的に取り組むことにした。
（二）部活動の推進	第一年次は、意識調査により生徒の実態を把握した上で、生徒会の活動を通して、前記(1)、(3)、(6)に重点的に取り組むことにした。
（三）交通安全のための「四プラス」ない運動の推進	教育相談の充実
（四）志学会（生徒会）活動の推進	志学会（生徒会）活動の推進
（五）家庭との連携強化	家庭との連携強化